放課後の児童生徒の居場所

自治体名

岩手県洋野町

学校数

小学校9校　中学校4校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

町内の漁港、漁業関連施設は大きな被害を受けたが、町内のほとんどの地域に防潮堤が整備されており、津波が防潮堤を越えなかったため、人的被害はなかった。住家被害があったのは防潮堤の整備されていない一部の地区で、計33棟だった。

放課後子ども教室「ダイちゃんの家」

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	○			
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ボランティア延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
	1人	安全管理員615人 無償ボランティア50人	205回	種市小学校内「ダイちゃんの家」専用教室ほか

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
	○	○	○		（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					（　　）

●活動内容、特色など

ダイちゃんの家は、基本的に長期休業中を除く月曜から金曜の午後2時から5時まで活動している。参加児童は1～3年生が中心で、宿題、読み聞かせ、自由遊び、ものづくり（工作、おやつなど）、四季を感じる活動（年中行事）など、さまざまな活動を行っている。

年々参加人数が増え続け（1回あたりの平均参加人数：H23→9人、H24→17人、H25→28人）、毎日わいわい活動している。多いときは、50人以上参加する日もある。

平成25年の夏休み前までは、旧校舎のプレールームで活動していたが、夏休み明けからは、新校舎に新たに設けられた専用教室で活動している。

「ダイちゃんの家」は、放課後子ども教室の前身となる「地域子ども教室」が始まる前から、児童の保護者と地域の方が中心となりボランティアで始めた活動である。見守ってくれている安全管理員さんの登録数は毎年20人前後で、そのうち約半数が長年経験している固定メンバーである。もともと自発的に始めた活動ということもあり、活動内容のアイディアなども安全管理員さんが中心となって考え、コーディネーターがサポートしながら活動するという仕組みができている。

●安全管理員の声

▸人気がでてきたのか、参加人数が増えた。　▸学校内に活動場所があるので、保護者も安心して参加させられると思う。　▸参加児童たちが、学校外で会ってもあいさつをしてくれる。「地域の子どもを地域で守る」という仕組みができていると思う。　▸安全管理員が新たな安全管理員を紹介してくれるなど、見守る側にも広がりがでてきた。　▸参加人数が増えるのはよいことだが、専用教室に全員入りきらないこともある。

お世話になった旧校舎とお別れ

おやつづくりに挑戦

「ダイちゃんガーデン」に花を植えた

タオルに思い思いの模様を縫いました

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

洋野町は沿岸部ではあるが、津波による人的被害等はまぬがれた。しかし、漁業施設等を含め、基盤産業に関係した被害は甚大であり、一日も早い漁業等の基幹産業の復興復旧が望まれる。

また、復興復旧推進による関連業務の増加により、保育にかける児童の居場所の安定的な設置も、課題となっている。

◇住民等からの要望・必要な取組

・保護者が安心して就労できる、児童の安全な放課後の居場所を設置する必要がある。

・地域と子どもたちがつながりを持てるようなコミュニティの機能を持った場の継続的開設が望まれる。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

・洋野町立種市小学校　…　教室開設場所の調整

・洋野町教育委員会生涯学習課　…　安全管理員の配置に関しての連絡調整

・子どもたちを支援する会　…　各種体験活動（夏のキャンプ体験、花壇の整備、冬の餅つき体験、等）の支援

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・新校舎の建設時に、放課後子ども教室を開設する部屋を新設した

・安全管理員がネットワークを構築することで、安全管理員の人数を継続的に維持できるようにした

・安全管理員が主体的活動を展開することによって、事業内容の工夫と改善を図った

・地域住民も巻き込んだ季節感のある体験活動の提供

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

・児童の安全安心な放課後の居場所という認識が広まり、参加人数が年々増加してきている。

・地域の子どもたちを地域で育てるという意識の熟成がなされてきている。

・地域の方々の参加による体験活動の場の設置により、子どもたちの地域での学びの場にもなっている。

・安全管理員の採用により、地域住民の所得の増加にもつながっている。

◇課題や今後の展望

・参加児童数の増加への対応方法の工夫

　〇子供たちを受け入れる教室の新設

　〇ボランティア養成等による児童の安全の確保